

先駆的 ICT に関する懇談会（第 3 回）議事要旨

1. 日 時 平成 30 年 4 月 13 日（金）13 時 30 分～14 時 30 分

2. 場 所 中央合同庁舎（総務省）8 階 第 4 特別会議室

3. 出席者

（メンバー）

甲田様、今泉様（物部様の代理）、西山様（熊谷様の代理）、井上様（田中様の代理）、
村井様、田口様、加納様、藤野様、丸山様（西川様の代理）

（総務省）

野田総務大臣、坂井総務副大臣、小林総務大臣政務官
鈴木総務審議官、武田総括審議官、山田情報流通行政局長、
吉田総括審議官（情報通信担当）、今川情報通信政策課長 他

4. 議 題

- 1 開会
- 2 地域における生活支援と生産性向上に関するプレゼンテーション
- 3 意見交換
- 4 閉会

5. 資 料

資料 3-1 アズママ甲田社長 プレゼン資料

資料 3-2 日本パラリンピアンズ協会田口理事 プレゼン資料（非公開）

参考資料 3-1 IoT 新時代の未来づくり検討委員会 中間とりまとめ案

参考資料 3-2-1 障害関連団体からの IoT・AI の活用に関する要望（例）

参考資料 3-2-2 障害関連団体からの IoT・AI の活用に関する要望（原文）

6. 議事要旨

（1）開会

（2）野田総務大臣挨拶

（3）地域における生活支援と生産性向上に関するプレゼンテーション

資料 3-1 から 3-2 にもとづき、甲田様及び田口様からプレゼンテーションが行われた。

（4）意見交換

意見交換の概要は以下のとおり。

- ・実際に障害者等から話を聞かないと気付かない点が多い。障害者数は、現在はおよ

そ900万人となっており、先天的な障害だけではなく高齢化に伴い増加している。そのため、障害者手帳をICカード等によりデジタル化し、便利なものにしていくことは重要。

- ・新たな技術の導入にあたり日本はリスクに敏感である。もちろん不正はあってはならないが、リスクを全く容認しないことで技術の進歩を妨げている部分もある。
- ・当事者でないと気付かないという点は、女性活躍の分野でも同じ問題がある。例えば、女性が通勤電車でベビーカーを乗せることが難しいなどが挙げられる。
- ・アズママの取組は、託児についてどんなに親しくても頼みにくいという部分もあるため、その点を無機質にシステムチックにできる点が良い。人間故に気にする部分を、誰も傷つかないようにICTによってうまくカバーしている。
- ・コミュニティリーダーの育成は地域創生において難しいポイントであり、地域性を理解したリーダーを育てることが重要。そのためには、行政の理解、企業の理解が必要。
- ・生活の不便等が見える化する役目が行政にはあり、見える化することで社会的ニーズが可視化され、ビジネスの促進に繋がる。
- ・これからは資本主義だけを追うのではなく、共助という仕組みを目指していくことが必要。
- ・これまで国が税金を使ってやってきたことを、ビジネスとしてペイできるようにすることが大事。共助だからタダでということではなく、ビジネスとして成り立たせることができるのがICTの魅力の一つ。
- ・障害者等の声に耳を傾けることで、日本国民全体にとって便利なイノベーションになる可能性がある。経済とともに、ソーシャルウェルフェアにも寄与することが重要。

以 上